

〔総合的な探究の時間〕

(1) 改訂の基本的な考え方

今回の改訂では、名称が変更され、小・中学校における総合的な学習の時間の取組を基盤とした上で、「探究の見方・考え方」を働かせながら、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、自ら問いを見いだして探究する力を育成するように設定された。

総合的な学習の時間は、課題を解決することで自己の生き方を考えていく学びであるのに対して、総合的な探究の時間は、自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していくような学びである。このような生徒の姿を実現するためには、探究の過程が高度化され、探究が自律的に行われるよう、より洗練された質の高い探究を実現する必要がある。

各学校では、教育目標を踏まえ、総合的な探究の時間が教科・科目等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう、教育課程における位置づけを明確化し直すことが求められている。

(2) 総合的な探究の時間の目標

各学校において、次の趣旨を適切に盛り込んだ上で、どのような生徒を育てたいのか、また、どのような資質・能力を育てようとするのか等を明確にする必要がある。

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

※「探究の見方・考え方」を働かせるとは

「探究の見方・考え方」を働かせるとは、各教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に活用して、広範で複雑な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の在り方生き方を問い続けることである。

(3) 探究の意義や価値を理解することについて

様々な場面で、生徒自らが探究を自律的に進めるようになることが、その意義や価値を理解した証となる。そのためには、この時間で行う探究が、学習全般や生活と深く関わっていることや学びという営みの本質であることへの自覚を大事にすることが欠かせない。その自覚が生徒一人一人の課題を自分で解決する学びの継続につながる。

(4) 実施に当たっての配慮事項

質の高い豊かな教育活動を実施するためには、教職員が一体となり協力できる体制を整備し、授業時数の確保と弾力的な運用に努めるとともに、学習環境の整備や外部連携の構築に配慮するなど、指導体制について工夫を行うことが重要である。また、体験活動を重視するとともに、探究の過程においては、他者と協働して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動を行うようにすることが大切である。

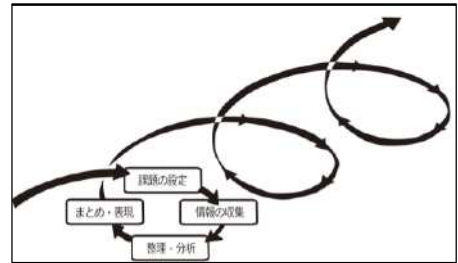
(5) 教育課程編成上の留意点及び指導計画作成上の配慮事項等について

Q 総合的な探究の時間における探究とはどのような学習活動か。

A 次のような問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動のことである。

- ① 課題の設定 ② 情報の収集
- ③ 整理・分析 ④ まとめ・表現

ただし、①～④を固定的に捉える必要はない。



Q 他教科・科目における探究との違いは何か。

A 基本的に以下の三つの点において他教科・科目において行われる探究と異なっている。

- ・ この時間の学習の対象や領域は、特定の教科・科目等に留まらず、実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する事象である点
- ・ 複数の教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に働かせて探究する点
- ・ 学習活動が、解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、唯一の正解が存在しない課題に対して、最適解や納得解を見いだすことを重視している点

なお、実社会や実生活における課題を探究する総合的な探究の時間と、教科の系統の中で行われる探究の両方が教育課程上にしっかりと位置付き、それぞれが充実することが豊かな教育課程の実現につながると考えられる。

Q 探究の過程が高度化する、探究が自律的に行われる、とはどのようなことか。

A 高度化とは、①探究において目的と解決の方法に矛盾がない（整合性）、②探究において適切に資質・能力を活用している（効果性）、③焦点化し深く掘り下げて探究している（鋭角性）、④幅広い可能性を視野に入れながら探究している（広角性）などの姿で捉えられる。

探究が自律的に行われるとは、①自分にとって関わりが深い課題になる（自己課題）、②探究の過程を見通しつつ、自分の力で進められる（運用）、③得られた知見を生かして社会に参画しようとする（社会参画）などの姿で捉えられる。

【総合的な探究の時間の構造イメージ】

